

平成29年産夏秋野菜の需給・価格の見通しについて（案）

1 夏秋キャベツ（7～10月）

主産地の動向・供給の見通し等

- 1 主な産地**
 - ・作付面積：岩手は前年比99%、群馬は101%、長野は103%。
 - ・生育状況：低温や干ばつの影響で遅れ気味だったが、6月下旬の降雨と気温上昇で、平年並みに回復してきている。台風3号および降雨の影響も軽微で、今後も生育が進み、群馬を中心に潤沢な出荷となる見込み。
 - ・出荷開始：群馬で6月上旬、長野で6月中旬、岩手で6月下旬。
- 2 供給見通し**
 - ・各産地とも生育は平年並みに回復傾向。7月前半は平年を下回るものの、後半以降は平年を上回る出荷が見込まれる。
- 3 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。**

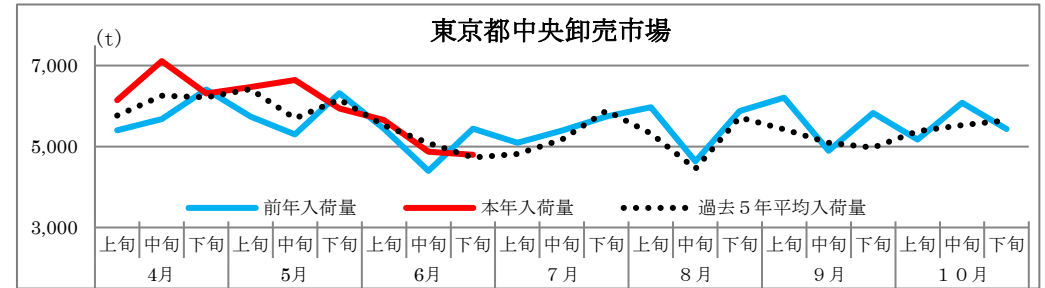
需要・価格の見通し

- 1 需要見通し**

□今夏の猛暑予想から加熱調理の需要は減少すると考えられる一方で、カットサラダの需要は堅調であると考えられることから、需要は平年並みを見込む。

 - ・茨城産の加工・業務用野菜の在庫が多く、業務筋の引き合いが弱い。
 - ・昨秋の価格高騰を受けて、加工業務用野菜の契約価格が値上げ傾向。
- 2 価格見通し**
 - ・7月前半は、低温等の影響により出荷は平年を下回る見込みであるものの、茨城産の加工・業務用野菜の在庫が多く業務筋の引き合いが弱いことから、価格は平年を下回ると見込む。後半以降は、カットサラダの需要は堅調であるものの、出荷は作付面積の微増もあって平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回る見込み。

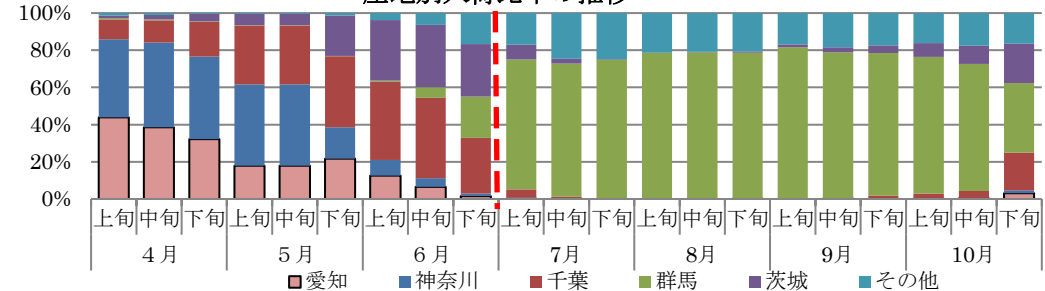
入荷量の推移等



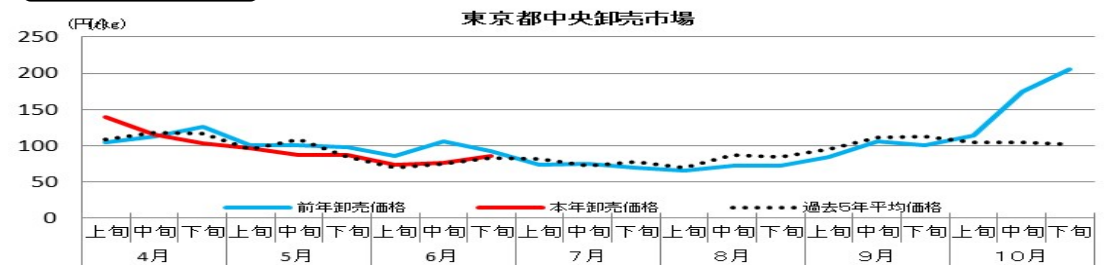
《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
平年比	↘	↗	↗	↗

産地別入荷比率の推移



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
平年比	↘	↘	↘	↘

2 夏だいこん（7～9月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地

- ・作付面積：北海道は前年比 103%、青森は 101%、岐阜は 100%。
青森では、一部産地で、にんじん（トンネル作）からの転換により微増。
- ・生育状況：北海道は生育遅れの地区があるものの、総体としては平年並み。青森は播種の少ない時期があり、8月中旬一時的に数量の少なくなる時期があるものの、平年並みの生育。
- ・出荷開始：岐阜で6月中旬、北海道で6月下旬、青森で7月上旬。

2 供給見通し

- ・台風や降雨等の影響もなく、安定した出荷が見込まれる。7月～9月の各月とも平年を上回る出荷が見込まれる。

- 3 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

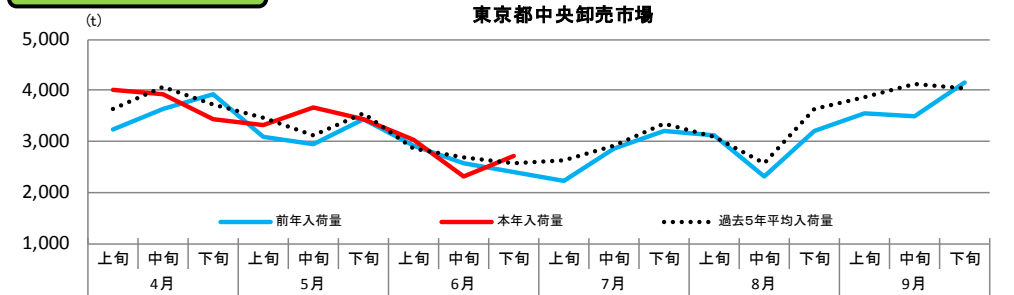
1 需要見通し

- 夏場は消費の減退期であり、売場も1本売りは小さく、1/2カットが大半を占めている。
- 一方、和風ドレッシングを使った定番だいこんサラダが近年定着してきており、カットサラダが堅調なことから需要は平年並みを見込む。
- ・北海道及び青森においては、人手不足と運賃が値上がっている状況から、加工・業務用野菜の契約単価が上昇傾向にある。また、昨年の北海道の品薄状況から、契約率を高めているメーカーもある。

2 価格見通し

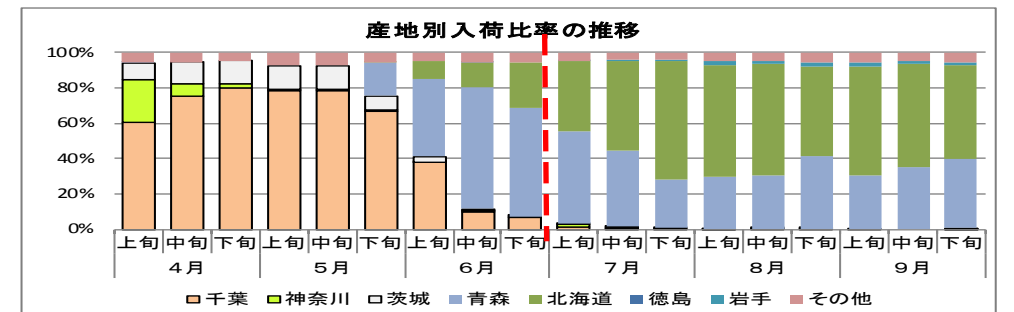
- ・7月から9月は、カットサラダの需要は堅調であるものの、作付面積が微増であることに加え生育も順調であることから、出荷は平年を上回る見込みであり、価格は平年を下回ると見込む。

入荷量の推移等

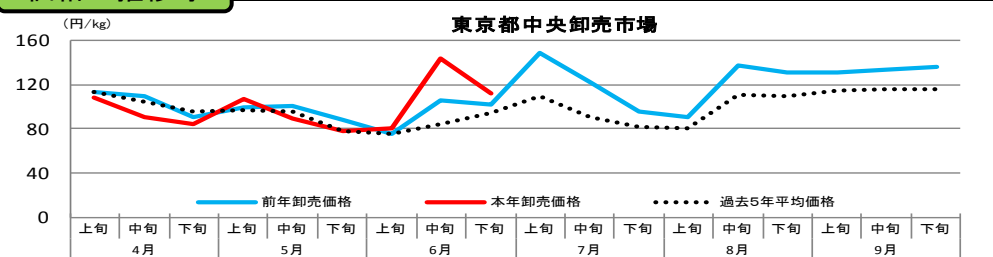


《今後の見通し》

	7月	8月	9月
平年比	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月
平年比	↘	↘	↘

3 たまねぎ（7～10月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地

- ・ 作付面積：北海道は前年比 102%、兵庫は 100%、佐賀は 91%。
北海道は加工業務向け作付指標の増加による。
- ・ 生育状況：北海道は台風の影響もなく肥大順調で、8 月からの出荷促進を計画。
兵庫・佐賀は貯蔵物の出荷となる。
- ・ 出荷開始：北海道の極早生種で 8 月上旬、早生種で 8 月下旬。

2 供給見通し

- ・ 前年のような病害の発生も少なく、期間を通して安定した出荷が見込まれる。
7 月～8 月は平年を上回り、9 月～10 月は平年をやや下回る見込み。

- 3 この先 1 ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

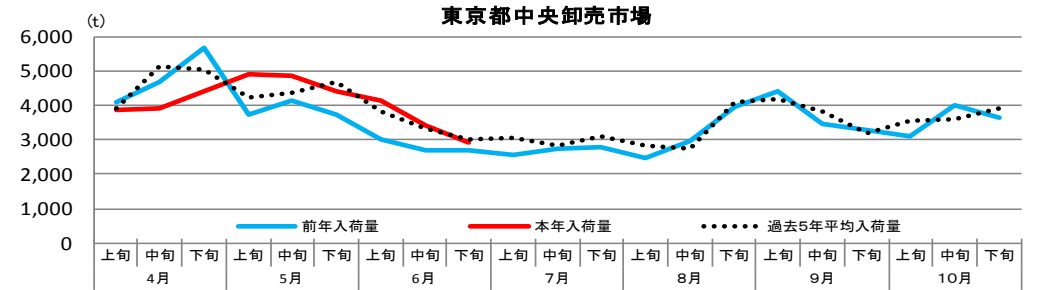
1 需要見通し

- たまねぎの消費量が多い学校給食が夏休みで無いものの、オニオンサラダ（カットサラダ）の需要が伸びており、家庭内の消費頻度が高く堅調であることから、需要は平年並みを見込む。

2 価格見通し

- ・ 7 月及び 8 月は、カットサラダに需要は堅調であるものの、極早生を増加させたことにより出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。9 月及び 10 月は、出荷は平年をやや下回る見込みであるものの、猛暑の影響で消費が減退して引きが弱まることから、価格は平年並を見込む。

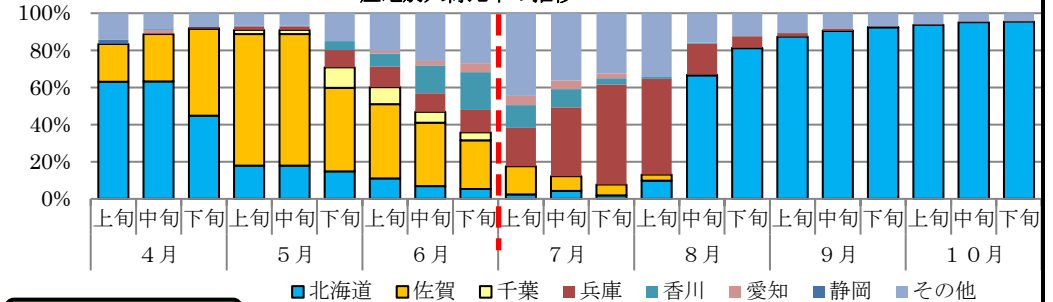
入荷量の推移等



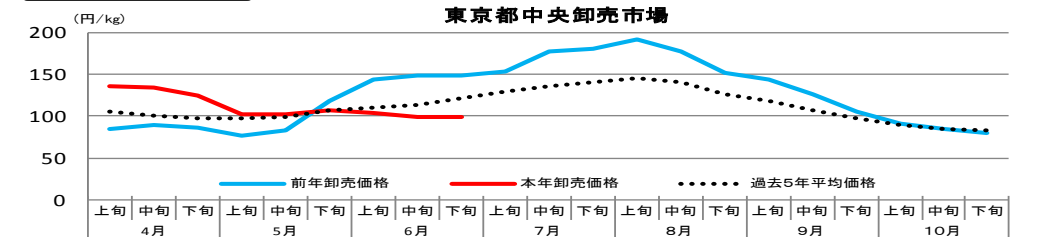
《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
平年比	↗	↗	↘	↘

産地別入荷比率の推移



価格の推移等



《今後の見通し》

	7月	8月	9月	10月
平年比	↘	↘	→	→

4 秋にんじん（8～10月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地

- ・作付面積：北海道は前年比 105%、青森は 100%。
北海道では選果場の更新等により、共販面積が増えている。
- ・生育状況：北海道の播種開始は平年並み。曇天、降雨の影響で一部の地区ではバラつきが見られるものの、総体としては平年並みの生育。青森は、播種は平年並みに行われ、干ばつ傾向も現在は回復し、平年並みとなっている。
- ・出荷開始：青森で7月上旬、北海道で7月中旬。

2 供給見通し

- ・作付面積の増加と、生育も平年並みに回復してきたことから、順調な出荷が見込まれる。8～10月の各月とも、平年を上回る出荷となる見通し。

3 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

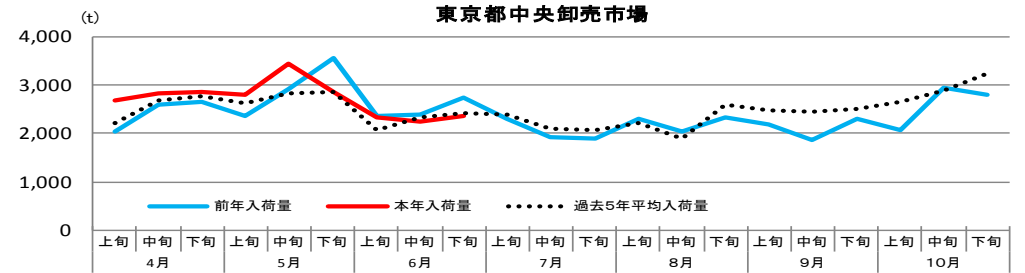
1 需要見通し

- にんじんの消費量が多い学校給食が夏休みで無く、今夏の猛暑予想から消費量は減少すると考えられるものの、7～8月は、カレー用の消費頻度が高まる時期であることから、需要は平年並みを見込む。

2 価格見通し

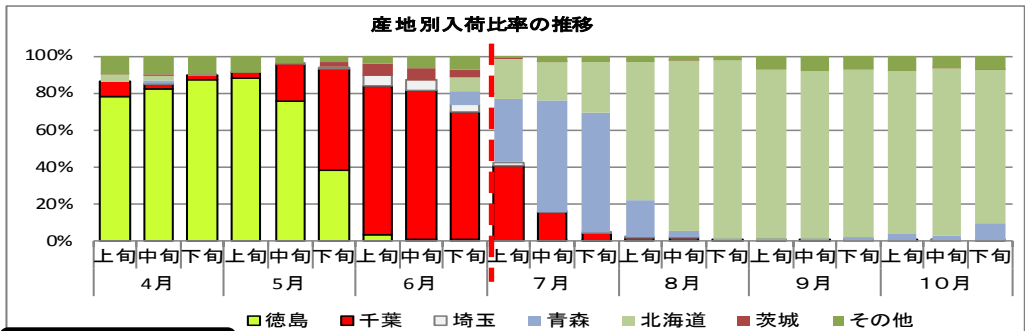
- ・8月から10月は、需要は平年並みの見込みに対し、作付面積が増加して出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回るを見込む。

入荷量の推移等

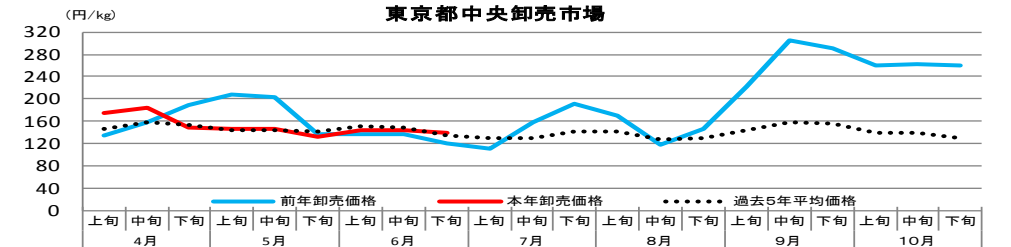


《今後の見通し》

	8月	9月	10月
平年比	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》

	8月	9月	10月
平年比	↘	↘	↘

5 夏はくさい（7～9月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地

- ・ 作付面積：北海道は前年比 95%、群馬は 97%、長野は 99%。
- ・ 生育状況：各産地とも低温、干ばつの影響で遅延傾向であったが、6月下旬以降の降雨と気温上昇によって肥大が進み、生育が進んだ状況。長野は準高冷地が終盤となり、高冷地からの安定した出荷となっている。北海道も生育順調。
- ・ 出荷開始：群馬・長野で5月下旬、北海道で7月上旬。

2 供給見通し

- ・ 生育も回復し、安定した出荷が見込まれる。7～9月の各月とも平年を上回る出荷が見込まれる。

- 3 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

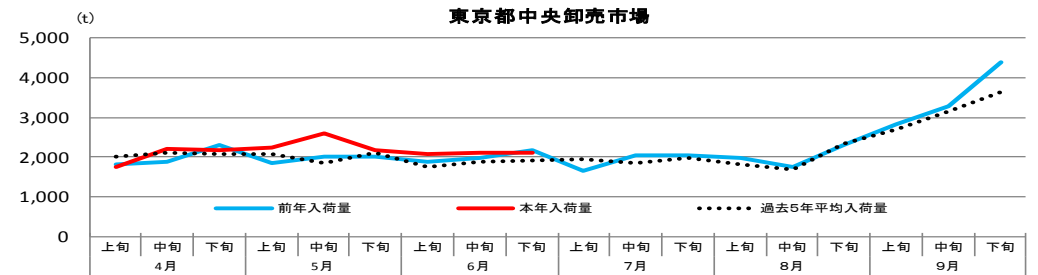
1 需要見通し

- ☐ 過去に夏場のサラダ用はくさいを何度も繰り返し導入したこともあったが消費は低迷した。夏場は需要期ではなく、9月以降の鍋需要を見込んでいることから、需要は平年並みを見込む。
- ・ 昨秋の価格高騰の影響により、漬物メーカーの契約率は上昇傾向であることから、市場での引き合いは弱まる見込み。

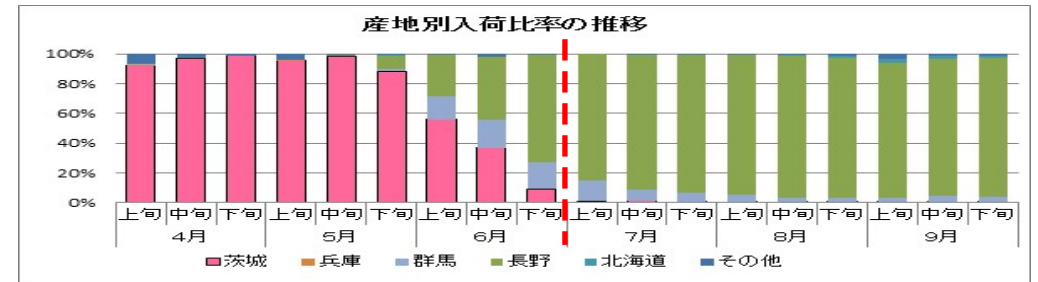
2 価格見通し

- ☐ 7月及び8月は、需要期ではない中で、生育が進み出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。9月は、出荷は平年を上回る見込みであるものの、価格は鍋需要が見込まれることから平年並みを見込む。ただし、高温が続いた場合には平年を下回る可能性もある。

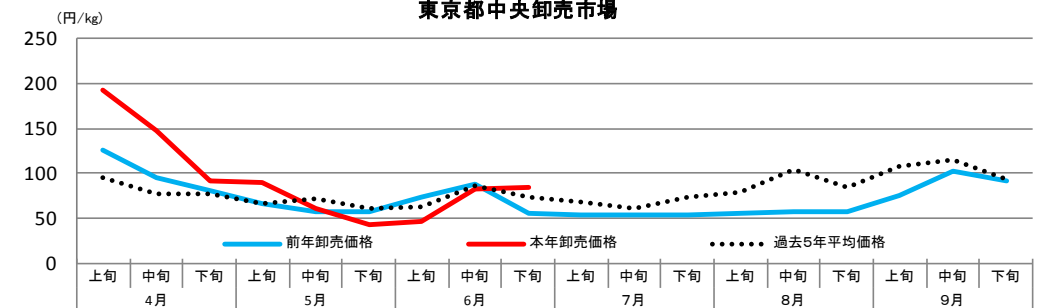
入荷量の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	↗	↗	↗



価格の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	↘	↘	→

6 夏秋レタス（7～10月）

主産地の動向・供給の見通し等

1 主な産地

- ・ 作付面積：北海道は98%、岩手は100%、群馬・長野は101%。
- ・ 生育状況：他の葉物野菜と同様に低温・干ばつ傾向が解消され、各産地とも潤沢な出荷となっている。群馬は、高温期（7月下旬～8月）は作付を減らしている。長野は、今後夏系の品種に切り替えが進む。
- ・ 出荷開始：群馬は4月中旬、北海道は5月中旬、岩手は6月上旬、長野は6月中旬。

2 供給見通し

- ・ 潤沢な出荷が見込まれ、出荷量は、各月とも平年を上回る見通し。

3 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

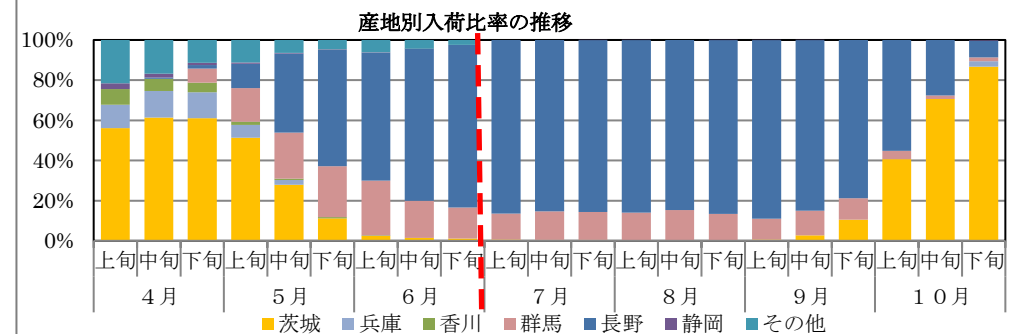
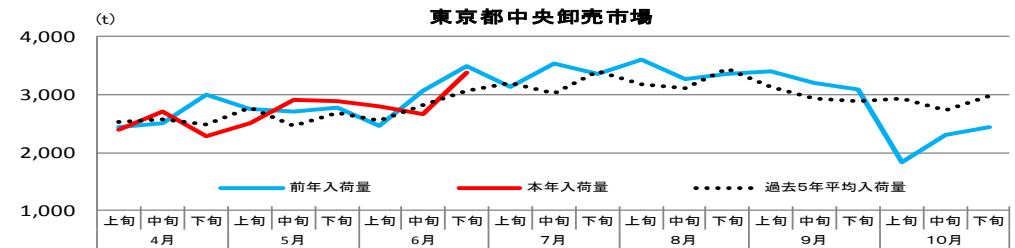
1 需要見通し

- ☐ 今夏の猛暑予想もあり、夏場のサラダ需要は継続すると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- ☐ 現在はレタスの相場が安いので、使い切りのカット野菜よりも、冷蔵庫で保管しながら消費できる原体の需要が堅調。

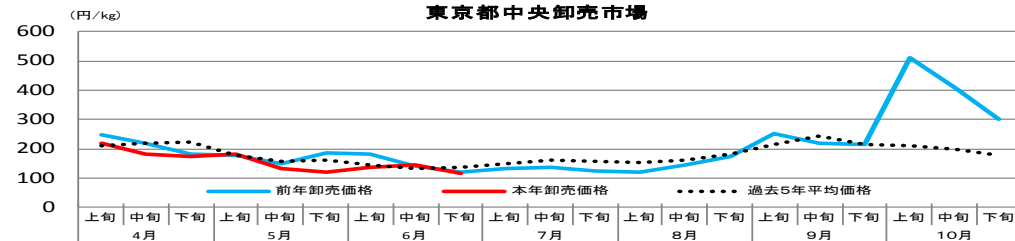
2 価格見通し

- ・ 7月及び10月は、需要は平年並みの見込みに対し、生育が順調であり出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。

入荷量の推移等



価格の推移等



その他品目の需給・価格の見通しについて

1 きゅうり（7～9月）

供給の見通し等

1 供給見通し

- ・北海道、福島・岩手等の東北産地、群馬等が中心の出荷となる。
- ・作付面積は、産地によって増減はあるものの、総体として概ね前年並み。
- ・生育状況は、夜温が上がらず東北産地の生育は遅れ気味であったが、気温の上昇にともなって平年並みの生育に回復。
- ・供給見通しは、作型が変わる8月は概ね平年並みの出荷で、それ以外の月は平年を上回る出荷が見込まれる。

2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

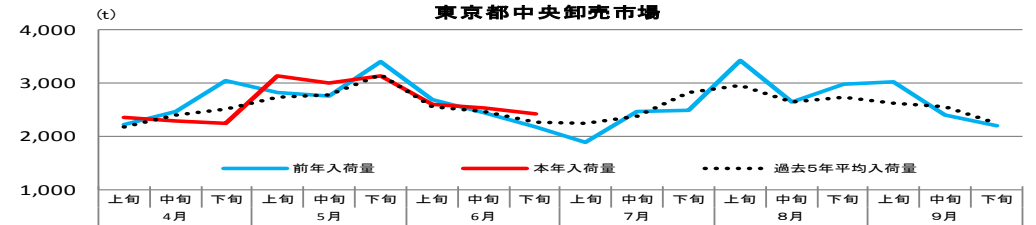
1 需要見通し

- ・今夏の猛暑予想もあり、夏場のサラダ需要、漬物需要は継続すると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- 今後は加熱商材の浸透によっては微増の可能性はある。

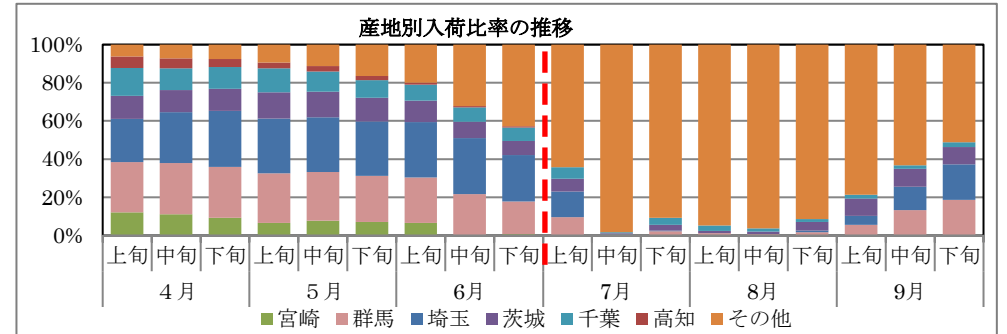
2 価格見通し

- ・8月以外は、需要は平年並みの見込みに対し、出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。8月は、作型の切替りに伴い出荷は平年並みの見込であることから、価格は平年並みを見込む。

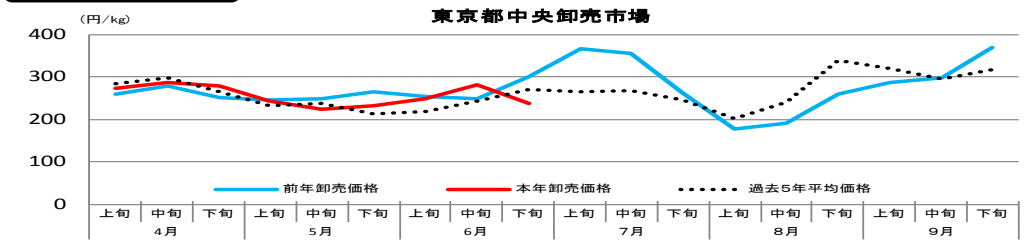
入荷量の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	↗	→	↗



価格の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	↘	→	↘

2 トマト（7～9月）

供給の見通し等

1 供給見通し

- ・北海道、福島等の東北産地、関東産地、岐阜、熊本等が中心の出荷となる。
- ・作付面積は、総体としては概ね前年並み。大玉トマトからミニトマトに転換している産地も見られる。
- ・生育状況は、7月に入り平年ペースに回復している。
- ・供給見通しは、作型が変わる9月は平年並みを下回る見込みだが、それ以外の月は平年を上回る出荷が見込まれる。

2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並が多いとなっている。

需要・価格の見通し

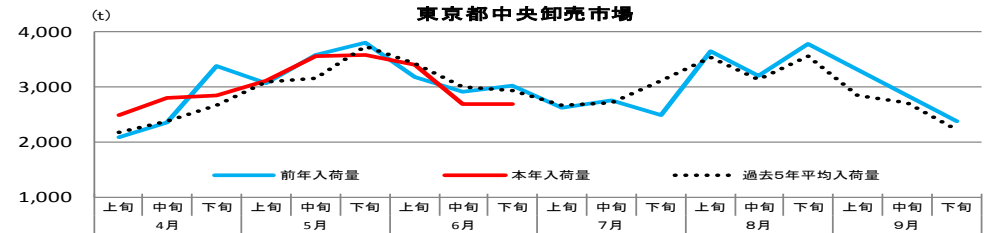
1 需要見通し

- ・今夏の猛暑予想もあり、夏場のサラダ需要は継続すると考えられることから、需要は平年並みを見込む。
- 現在トマト相場が安いと高リコピン、フルーツ系トマトなど付加価値の高い商材の価格が下がっており需要増の可能性はある。

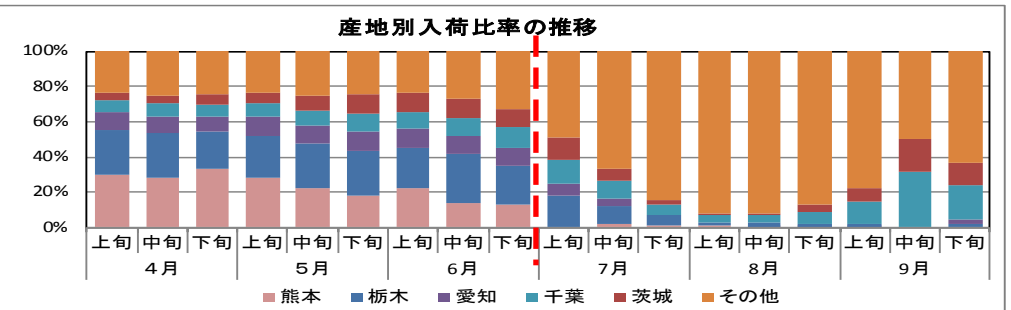
2 価格見通し

- ・9月以外は、需要は平年並みの見込みに対し、生育は順調であり出荷は平年を上回る見込みであることから、価格は平年を下回ると見込む。9月は、作型が切替ることに伴い出荷は平年を下回る見込みであることから、価格は平年を上回ると見込む。

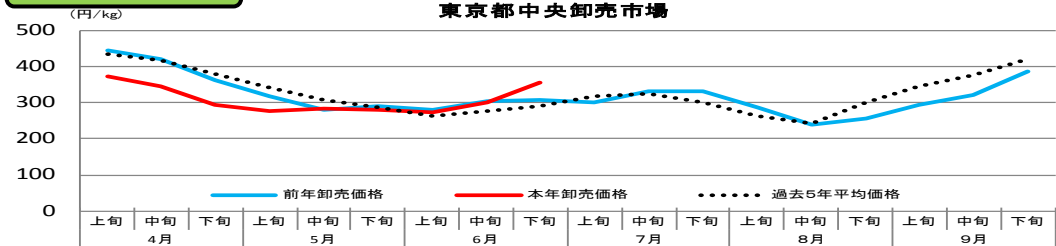
入荷量の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	↗	↗	↘



価格の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	↘	↘	↗

3 ねぎ（7～9月）

供給の見通し等

1 供給見通し

- ・北海道、青森、茨城等が中心の出荷となる。
- ・生育状況は、7月上旬の降雨の影響により、福岡やその他の産地において一時的に数量が減少したものの、今後の出荷に大きな影響はない見込み。
- ・供給見通しは、各月とも概ね平年並みの出荷が見込まれる。ただし、豪雨被害を受けた福岡については今後の出荷への影響が出る可能性がある。

2 この先1ヶ月の気象予報は、平均気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並であるが、西日本の太平洋側が平年並か多いとなっている。

需要・価格の見通し

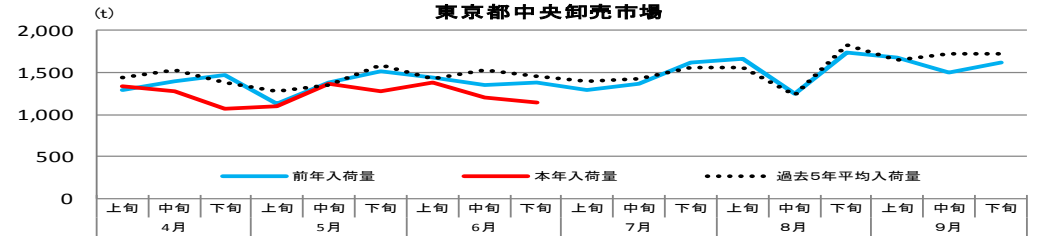
1 需要見通し

- ・今夏の猛暑予想から加熱商材としての白ねぎの需要は減少するものの、薬味用のカットねぎは使い勝手が良く、冷凍して保存も効くので需要が伸びていることから、需要は平年並みを見込む。

2 価格見通し

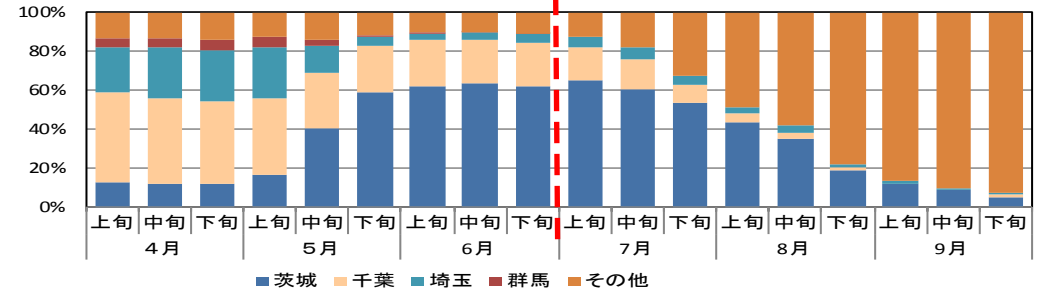
- ・7月から9月は、需要は平年並みの見込みの中で、出荷は概ね平年並みの見込みであることから、価格は平年並みを見込む。ただし、豪雨の被害を受けた影響が出た場合には、価格は平年を上回る可能性。

入荷量の推移等

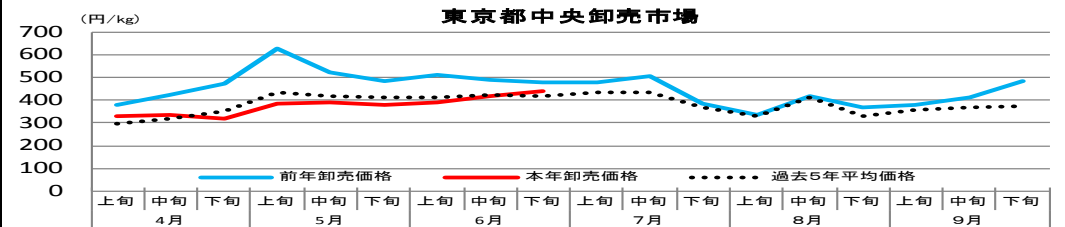


《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	→	→	→

産地別入荷比率の推移



価格の推移等



《今後の見通し》			
	7月	8月	9月
平年比	→	→	→

その他、夏秋野菜全体の主な消費の動向等に関する本委員会消費分科会での意見

- (1) 貿易統計によると、生鮮野菜の輸入量は、昨年7月以降10カ月連続で前年同期比を上回っている状態にあるが、今後とも輸入が増加すると見込まれる生鮮野菜について
 - 南半球（オーストラリア、ニュージーランド）で栽培される野菜は輸入増加。
 - たまねぎ、にんじん、レタスに関しては輸入はさらに需要大。
 - 冷凍業務用の国産野菜が不足。特に、えだまめ、トウモロコシ、いんげん、オクラ、ブロッコリーなど、輸入品が増える見込み。
 - 昨年度の異常気象下での輸入増は想定内と思う。
 - 現下の生産現場は後継者が付かず、高齢化に伴い労働力が減少している中で、輸入野菜等への依存度は高まってくると思う。

- (2) ここ2年間、9～10月にかけての台風の襲来や秋雨前線の停滞により野菜価格の高騰が見られるが、流通サイドとして今年度における対応について
 - 野菜価格の高騰が長期継続する場合は輸入を実施。
 - 農業法人などの経営面積を拡大する必要。
 - 国産のみ扱いなので、国内生産者との契約数量で確保する。国産のプレミアも考慮する。
 - 今年度に関しては平年作予測の中で、主要品目では対応産地を拡大してのリスク分散を行う。
 - 3年前から韓国農協と今後の供給提携の約束をかわしている。

- (3) 前記「夏秋野菜の今後（7～10月）の需要見通し」に係る品目以外で、今夏の注目すべき野菜について
 - アスパラガス
 - ズッキーニ、ケール
 - オクラなどの果菜類の人气が上昇している。
 - 茶豆などのおいしい豆類。
 - ブロッコリー、ミニトマトなども売れ筋。
 - 卸売市場には流通していないような郷土野菜等の販売強化をしていきたい。例えば、八丈島の島おくら(丸おくら)など。